

徳島県立西部防災館指定管理候補者選定委員会 議事概要

委員	施設が河川近くに立地しているため、洪水リスクに対する対応や訓練はどのように行っているか。
申請者	豪雨や台風が予測される場合は、事前に情報を収集し、危険であれば施設を閉館。 また、近隣の「しこく三郎の郷」キャンプ場と連携し、非常時にはそちらへ一時的に退避できるよう準備している。 スタッフは全員が防災士の資格を保有しており、定期的な防災訓練を通じて、災害時の対応手順を確認している。
委員	講座を様々開催しているが、内容はどのように決めているのか。
申請者	年度末に次の1年間の講座テーマを決めている。 加えてニュース等で話題性のあるものを取り入れるようにしている。 スタッフは全員防災士の資格を持っているため、細かな内容については都度話し合って決めている。 また、西部総合県民局等とも協議し、県の要望を取り入れたり共同で実施することもある。
委員	運営開始から施設面や運営面で大きな問題はあったか。 また、苦勞したことは。
申請者	施設管理において大きなトラブルはないが、夏場の体育館利用時に熱中症になる方がいた。 施設オープン当初は実績やノウハウがなかったため、手探りで大変だったが、南部防災館に助言いただいたり、県と何度も協議を重ねて今の基盤ができた。
委員	提出された就業規則では、正社員の勤務時間が7.5時間となっているが、この勤務体制について説明して欲しい。 また、パートタイマーの勤務時間についても合わせて説明して欲しい。
申請者	当社の全事業所が7.5時間勤務を採用している。 パートタイマーについては、夜間やイベント時など、需要に応じて柔軟に勤務時間を設定している。

委員	物価高騰や光熱費増加に対応するため、どのようなコスト削減策を講じているか。
申請者	本業である建設業のノウハウを活かし、メンテナンスや修繕を自社で行うことで外注費用を削減してる。 また、利用が集中する時間帯を避けたり、太陽光発電を最大限に活用したりすることで、電力消費を抑える工夫をしている。
委員	主にどのような方々が施設を利用しているか。 また、講座の参加者はどこから来ているか。
申請者	主な利用者は、近隣住民や西部圏域の方々。 防災講座に関しては、県外からも学校や団体が遠足などで訪れるケースが増えており、施設の評判が口コミで広がったためと考えている。
	委員長まとめ 審査の結果、徳島県立西部防災館の指定管理候補者として、四国開発土木株式会社を選定する。